

「次期本庄市一般廃棄物処理基本計画（案）」に対する意見と市の考え方

「次期本庄市一般廃棄物処理基本計画（案）」に対するパブリックコメントを実施したところ、貴重なご意見をいただきありがとうございました。提出された意見と市の考え方を以下のとおり公表いたします。

1. 意見等の募集期間：平成30年12月4日（火）～平成31年1月4日（金）
2. 意見等の受付人数： 1人 1件（提出方法の内訳：電子メール0人、持参1人）
3. 提出された意見等および市の考え方

	提出された意見	提出された意見に対する市の考え方
①	<p>私は現在、東小学校応援団としてボランティアで除草、剪定等の作業をしています。この除草、落葉を10～15坪、深さ1～2m斜度を付けて穴を掘り入れる、2～3年程度で分解しますので市内23校（小、中、高）全てで実施する。分解方法は30～40cmの落葉に土を10cm程度かけて何層か作る（分解を早くするには小糠等の微生物を添加）。今年、東小にて8月一斉除草時には4トン車（2回）軽トラ（4回）焼却炉に持ち込みました。23校で実施する事により作業の効率、成果は上がりゴミ袋数千枚節約、エコに繋がり焼却炉での廃棄物での泥の軽減に繋がると考えます。現状を見ますと若干、根元の土は落とすものの、そのまま袋に詰めて出しているのが実情です。剪定された小枝も2cm未満であれば5～6年程度で分解するように思います。分解された土からはカブトムシ等の昆虫も生み出されます。</p> <p>また、この方法を一般にも当てはめて実施したらいかがでしょうか。展開方法として、沢山ある休耕地を何か所に分けて5～6m掘り、管理者を付け小枝3cm程度を目安に一般家庭の剪定した小枝、落葉、雑草を数年か</p>	<p>樹木の剪定枝や雑草等の排出が多いことは、本市のごみ排出量が多い要因の一つと考えられ、課題として認識しております。貴重なご意見として、今後の廃棄物行政の参考とさせていただき、剪定枝の減量化・資源化について研究して参ります。</p>

<p>けて分解させる。これには選別の徹底が基本であり管理が求められる。一般家庭では土、日曜日に多々行われますので年中無休とし、管理人は低賃金と雇用の拡大に繋がるシルバー人材センターを利用。</p> <p>余分な事ですが、地方都市の発展は難しく、エコを目指し分解した所から野菜を生産しエコ野菜として発売はいかがでしょうか。エコロジー本庄を目指す、そして全国に発信する、展開方法として小学校から始め北欧スウェーデン方式を手本に10～15年かけて達成させる。エコは思いやりの心が育まれ人格形成が助長される。</p>	
--	--